

第2次新宮町環境基本計画年次報告書

令和6年度実績



目次

第2次新宮町環境基本計画について	1
環境目標達成のための施策の推進状況	2
○ 目標1:地球環境の保全	2
○ 目標2:自然環境の保全と活用	4
○ 目標3:快適環境の創造	6
○ 目標4:生活環境の保全	8
○ 目標5:環境保全体制の構築	10
○ 目標6:重点プロジェクト.....	12

第2次新宮町環境基本計画について

計画の目的

前計画では、“持続可能な社会の構築”を“身近な地域”において実現することを目指して、町民、事業者、各種団体など様々な立場での役割を明らかにし、本町における環境の保全及び創造に関する施策を総合的に取り組んできましたが、この理念を継承するとともに、新たに“脱炭素社会”を目指した施策などを追加し、今回「第2次新宮町環境基本計画」を策定しました。

計画期間

令和6(2024)年度から令和14(2032)年度までの9年間

目指す環境のすがた

こころをつなぎ

「こころをつなぎ」とは

先人から受け継がれた自然や歴史・史跡を守り、大切に思う心を育み、そして、安全、安心で健康的な生活環境を守り、地球温暖化を防止するため私たち一人一人の行動など環境に対する思いを次の世代につないでいく、また、人と人とのつながりや地域のつながりを創っていくことです。

「みどりあふれる」とは

みどりは、整備された農地や山林の緑、河川・ため池等水辺の緑、海辺の緑など豊かな自然の緑や歴史的な緑、そして公園や住宅地の緑のことです。

そういった「みどりあふれるまち」になることを願い、よりよい環境づくりに向けて取り組んでいきます。

地球環境の保全



施策の取組状況

基本施策	主な取り組み
(1) 省エネルギーの取組の推進	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宮町地球温暖化実行計画(事務事業編)に基づき、温室効果ガス排出量調査の集計及び進捗状況アンケートを実施し、温室効果ガス削減目標達成状況の点検・評価を実施しました。 ・新宮町地球温暖化実行計画(区域施策編)を策定しました。 ・ECOチャレンジ応援事業を実施し、募集世帯数300世帯に対し、260世帯が参加しました。 <p>(社会教育課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杜の宮グラウンドの照明のLED工事を実施しました。また、そびあしんぐうの照明の一部を電球交換時にLEDに更新しました。
(2) 再生可能エネルギーの導入・普及促進	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌にて、毎月「ゼロカーボンシティ新宮」を掲載し、周知・啓発を行いました。
(3) 気候変動の影響への適応	<p>(健康福祉課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症に関する情報を6月に町Instagramへ掲載しました。また、ポスターや町ホームページへの掲載も実施しました。 <p>(地域協働課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の中学校や地域の公民館などで防災研修会を全38回実施しました。合計参加者数は2,112名でした。



防災研修会(新宮東中学校)



杜の宮グラウンドのLED照明

指標の取組状況

指標項目	実績	目標	備考
ECOチャレンジ応援事業の参加率	87%	100% (令和14年度)	募集世帯数300世帯に対し、260世帯が参加
地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づく温室効果ガス排出量削減目標(平成25年度比)	3,896t-CO ₂	1,946t-CO ₂ 50%削減 (令和12年度)	平成25年度排出量 3,892t-CO ₂
設置可能な町の公共施設へ太陽光発電設備導入	14.3%	50% (令和12年度)	令和5年度時点で設置可能と判断された21施設のうち3施設(「再生可能エネルギー導入戦略」参照)
熱中症の救急搬送件数	30件	20件以下 (令和14年度)	

課題と今後の方向性

2023年度に実施した「新宮町公共施設再生可能エネルギー導入調査」等を踏まえ、カーボンニュートラル達成のための大きな方針と、2030年度までに実施すべき具体的な取り組みを示した「新宮町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定したことに伴い、計画に基づく施策の実施状況を把握していく必要があります。

町民、事業者の意識の向上や具体的な対応方法を周知するため、温暖化防止対策等に関する勉強会やイベントを開催します。また、設置可能な町の公共施設へ太陽光発電設備の導入と電気設備のLED工事を検討・実施していきます。

熱中症の救急搬送件数については、引き続き、町Instagramやホームページへの掲載、ポスターの掲示などで周知します。



施策の取組状況

基本施策	主な取り組み
(1) 優れた自然環境の保全	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「楯の松原保全活動」を5回実施しました（その他2回は雨天により中止）。 ・福岡県荒廃森林整備事業を活用して、森林所有者・委託業者・福岡県と協議しながら9.27haの間伐を実施しました。 ・福岡工業大学の学生と連携し、本町の海岸や河川で水生生物の生態調査を実施しました。その結果、湊川河口でニホンウナギ等の絶滅危惧種が確認できました。 <p>(産業振興課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立花山の山開きを開催しました。 ・立花山の山頂及び登山道の整備を2回実施しました。
(2) 里地里山の保全と活動	<p>(産業振興課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内農業者16件に対し、鳥獣被害防止対策に係る経費の3分の2を助成しました。 ・立花口地区・原上地区・上府地区・湊地区に有害鳥獣（イノシシ・シカなど）の被害を減らすため、箱罠・くくり罠を設置し、39件の出動・58頭（イノシシのみ）の駆除や捕獲を行いました。 ・農業用ため池としての機能を保全するため、管理者である農区に対し、維持管理に係る経費を補助しました。

指標の取組状況

指標項目	実績	目標	備考
荒廃森林拡大防止のための整備等事業面積 （調査の結果、整備が必要と判断された71.26haの森林）	64.4% （整備面積：1.06ha） （R1～R6の累計：45.87ha）	100% （令和14年度）	・2回目間伐分の8.21haは除く ・侵入竹伐採分の1.95haは除く
荒廃農地面積 （区画整理に伴う荒廃農地面積は含まれていない）	80.8ha	80.0ha （令和14年度）	確保すべき農用地等の面積の目標達成状況調査

課題と今後の方向性

楯の松原保全活動や立花山の整備活動、新宮海岸の清掃は豊かな自然を守るだけでなく、新たに植樹した松が育ちやすい環境に整えたり、海洋ごみ（マイクロプラスチック等）の清掃をすることで藻場やサンゴ礁を保全したりすることで、地球温暖化対策にも貢献しています。これらの事業は、各活動団体等が中心を担っていますが、構成員の高齢化や人材不足などが懸念されています。継続的に実施していくために、町民や企業、行政、その他各種団体などで協働していく必要があります。

生物多様性の保全においては、福岡工業大学社会環境学部の学生と連携し、海岸や河川の水生生物の生態調査を実施しており、今後は、生態系を守っていくことの重要性を町民へ周知する方法を検討する必要があります。



福岡工業大学による調査



荒廃森林整備事業



設置した箱罠



山開き（立花山）



施策の取組状況

基本施策	主な取り組み
(1) 歴史的風土の保全と継承	<p>(社会教育課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」をテーマにした企画展を実施し、古代から現代の食の移り変わりを紹介しました。 ・相島積石塚群の進入路の環境整備をしました。 ・勾玉作り教室を2回(参加者延べ24名)実施しました。また、上府の寺子屋事業で勾玉作り教室(参加者18名)を実施しました。
(2) まちの緑・景観の整備と維持管理	<p>(地域協働課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい活動を実施した団体は、令和5年度は5団体でしたが、令和6年度は9団体に増加しました。この9団体に対し、助成しました。 <p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬のふんに対して、イエローチョーク作戦を実施し、要望に応じてポイ捨て禁止看板、犬のふんの放置禁止看板を合計12枚貸出しました。 ※イエローチョーク作戦: ペットの散歩で放置されたふんを黄色いチョークで囲み、発見日時を書き込むことで、放置した人に対して、適正な処置を促す取組。 <p>(都市整備課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいの丘公園にて新たに整備した公園の一部を芝生にして緑化の推進に努めました。 ・道路等公共施設のパトロール業務により、1週間で町内全体を巡回し、ごみ回収及び、ポイ捨て抑制の為に雑草の除去を実施しました。 ・補修が必要であると判断されていた11箇所の公園施設について補修工事を実施しました。 ・生け垣の設置に係る助成により、2件(24.8m)の整備が行われました。



勾玉作り教室



ふれあいの丘公園



イエローチョーク作戦

指標の取組状況

指標項目	実績	目標	備考
歴史資料館の入館者数	2,342人	3,000人 (令和14年度)	入館者数は前年度と比べ微増であり、コロナ禍以降、増加傾向である。
案内ボランティア登録者数	0人	10人 (令和14年度)	
人口一人当たりの公園の面積	7.14㎡/人	8.40㎡/人 (令和14年度)	新宮ふれあいの丘公園内の芝生公園の供用開始により、公園面積は234,108.16㎡となっている。
生け垣整備面積(累計)	1,548.17㎡ (91%)	1,700㎡ (令和14年度)	
緑の将来確保目標(緑被率)	59.0%	57.2% (令和14年度)	令和4年度都市計画基礎調査結果による。次回調査時期は令和9年度。

課題と今後の方向性

新宮町には、史跡が多く存在します。相島積石塚群については、環境整備を実施していくにあたり、作業員確保が難しくなっているため、作業の効率化を検討する必要があります。歴史的・文化的雰囲気を感じることができる町歴史資料館については、来館者の目標人数を達成するため、情報発信の方法について検討していきます。また、令和6年度は案内ボランティアの周知ができなかったため、来年度は、講座の開催等を実施して周知していきます。

東西地区住民の交流地点、地域住民の憩いの場、災害に備えた防災活動の拠点として位置付けた新宮ふれあいの丘公園について、継続して整備していきます。

公園や緑地、道路等へのごみのポイ捨てやペットの散歩で放置されたふんの放置等に対して、イエローチョーク作戦や看板の設置を実施していますが、発生件数が減っていないため、啓発方法を検討し、住民の意識の向上を促進します。



施策の取組状況

基本施策	主な取り組み
(1) 大気環境の保全と騒音・振動、悪臭の対策	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害の苦情相談事案が発生した際、早急に現地確認等の調査を行い、原因者と協議し、解決方法を検討してもらうよう指導を行いました。 ・野焼き事案ごとに現地確認を行い、野焼き禁止チラシを配布して、町からの指導を行いました。 ・県道湊下府線沿線の住宅を対象に交通騒音被害を軽減するため、新宮町住宅騒音防止対策事業費補助金交付要綱に基づき、補助金を29戸に対して交付しました。
(2) 水環境の保全	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3河川(湊川、牟田川、大門川)の水質検査を実施し河川水質の現状把握を行った結果、3河川すべて人の健康の保護に関する項目は環境基準以内でした。 ・生活排水による河川等の汚染を防ぐため、公共下水道事業計画区域外において、浄化槽の設置整備を行いました。(浄化槽設置整備事業補助金申請数:5人槽2基、10人槽1基) <p>(上下水道課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道の下水道整備において三代土地区画整理の一部と原上地区における新たな下水道整備により1.41haを供用開始しました。(公共下水道普及率86.8%) <p>(都市整備課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川沿いの道路については、町で適宜草刈りを実施しました。また、住民による草刈りについては、町で収集運搬を行いました。
(3) ごみの収集・減量化とリサイクルの推進	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古紙類等回収団体等奨励金事業については、27団体、155,220kgの回収がありました。 ・生ごみ堆肥化容器等購入助成金については、24件の購入助成を行いました。

指標の取組状況

指標項目	実績	目標	備考
大気汚染に関する相談件数	2件	0件 (令和14年度)	野焼き、悪臭など
騒音に関する相談件数	2件	0件 (令和14年度)	
湊川の水質(BOD75%値)	0.8mg/L	現状維持 (令和14年度)	環境基準 (5mg/L以下)
水質汚濁に関する相談件数	2件	0件 (令和14年度)	河川、水路など
生活系燃やすごみの排出量	163.7kg/人・年 <449g/人・日>	155.0kg/人・年 <425g/人・日>	一般廃棄物処理 実態調査による
生活系ごみのリサイクル率(年間)	16%	22.4% (令和14年度)	一般廃棄物処理 実態調査による

課題と今後の方向性

悪臭などの苦情については、連絡を受け次第速やかに現地調査を行い、原因が特定できた場合は原因者に対して直接指導を行っており、今後も、迅速に対応していきます。また、湊川、牟田川、大門川の水質についても検査を継続し、現状を把握していきます。

事業所ごみについては、事業所系一般廃棄物の減量等に関する計画書を提出するよう依頼していますが、例年、回答数が少ないため、提出の徹底を図っていきます。

例年、まつり新宮で5R(リフューズ・リデュース・リユース・リペア・リサイクル)等の環境に関する啓発ブースを出展していますが、今後は、環境に関するニーズに応じた啓発を実施していきます。



湊川(水質検査を実施)



環境に関する啓発ブース

環境保全体制の構築



施策の取組状況

基本施策	主な取り組み
(1) 環境学習と保全活動の推進	<p>(環境課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宮東小学校にて、環境に関するSDGsの講座を行いました。 ・各種団体と連携して楯の松原保全活動を実施している「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」に補助金を交付しました。 <p>(地域協働課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町ホームページで継続的に活動団体のPRを実施しました。 ・桜山手区からの要望で「行政懇談会」を実施しました。46名の区民が参加し、町と区民の意見交換をしました。

指標の取組状況

指標項目	実績	目標	備考
町クリーン作戦参加者数	— (荒天中止)	2,200人 (令和14年度)	町内全域
自然環境の保全活動実施回数	5回	12回 (令和14年度)	町主催、団体との共催・支援による開催回数を示す。
自然観察会、自然とふれあうイベントの実施回数	33回	30回 (令和14年度)	町主催、団体との共催・支援による開催回数を示す。

課題と今後の方向性

新宮町の環境を守り、活かしていく地域づくりを進めていくには、あらゆる世代が学習できる機会を地域・学校等で作る必要があります。

自然観察会や体験学習などについては、環境活動団体などと連携しながら、継続して実施していきます。

活動団体に対しては、自主的なまちづくり活動を支援するために団体の登録や助成金制度を導入し、継続して支援していきます。また、各団体の最新のニーズを把握していないため、次年度以降でニーズ等を把握する場を設ける必要があります。



福岡工業大学の学生による
海岸清掃活動



新宮中学校の学生による
楯の松原保全活動（白砂青松タイム）



おもてなし協会主催の
自然観察会





おもてなし協会主催の
自然とふれあうイベント



施策の取組状況

町は、ゼロカーボンシティ新宮を表明しており、新宮町地球温暖化実行計画（事務事業編）に基づき、町の事務や事業に伴う温室効果ガス排出量を削減するための取組を行っています。杜の宮グラウンドやそぴあしんぐうの照明をLEDに更新し、新宮町役場内やシーオーレ新宮の電気設備等のLEDへの更新を検討しました。

また、本町全域を対象としたカーボンニュートラル達成のための具体的な緩和策やすでに顕在化している気候変動の影響に対応する適応策をまとめた新宮町地球温暖化実行計画（区域施策編）を策定しました。

町	町民
<ul style="list-style-type: none"> ・杜の宮グラウンドのLED工事の実施 ・そぴあしんぐう照明の一部LED工事の実施 ・各公共施設のLED工事の検討 ・まつり新宮の環境に関する啓発ブースにて地球温暖化対策に関するパネルを掲示し啓発 ・町広報誌のActive新宮に毎月、地球温暖化に関する記事を掲載 ・福岡県が実施している太陽光パネル等の共同購入事業についてのチラシを町広報誌のActive新宮7月号に折込 	<ul style="list-style-type: none"> ・ECOチャレンジ応援事業に参加（260世帯が参加） 
事業者	各種団体など
<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市が主催（新宮町共催）した事業者向けの脱炭素セミナーに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・筑前新宮に白砂青松を取り戻す会と共に松林清掃、松の保全活動を実施 ・ボランティア団体等による新宮海岸の清掃活動の実施（9団体が実施） ・町づくり活動支援団体「Tachibana All Powers（TAP）」が伐採した竹を活用して竹灯籠まつりを開催

課題と今後の方向性

ゼロカーボンシティを宣言した本町は、脱炭素社会を目指すため、町民や事業者に対し、国や県が実施している脱炭素行動等への支援について、より多くの情報を周知していきます。

また、新宮町地球温暖化実行計画（区域施策編）に基づき、町民・事業者・各種団体などと協働して、地球温暖化に関する研修や講義などを実施・参加してもらうことで地球温暖化対策を推進していきます。